平成13年度第2回大台ヶ原ニホンジカ保護管理検討会

議事要旨

平成13年8月6日

1．大台ヶ原ニホンジカ保護管理検討会設置要領の改正について

設置要領の改正点

・範囲を奈良に限定せず、三重県も検討の範囲に含めるということで、奈良県という記述を削除する。

・関係機関として三重県にも加わっていただく。

2．議　事

1. 大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（案）について

3．議事要旨

(1)大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（案）について

・目的のところで、生物の多様性を回復させるとあるが、生物多様性とは何か、もっと具体的に示すとよい。

・目的の 10 年までのところは、森林植生の回復と健全なシカ個体群の維持とし、20年までは森林生態系の回復となるのではないか。

・背景で、ニホンジカは植生の衰退を加速させている要因であるという説明を付け加え、今はシカが問題であることをはっきり書くように。

・植生の被害について、もっと具体的に書くべきだが、シカによって減少している種を客観的に示せるデータで、もう少し補足するように。

・シカの密度と被害の相関をとることはできるのか。モニタリングのデータと糞粒法と対応させることはできるのか。シカの密度がどのくらいになるとそのような被害が出始めるのかを、グループ分けなどして大まかに把握する必要があるのではないか。

・枯死率と集団剥皮率とシカの密度の関係をひとつにまとめるように。

・樹種別に被害状況をまとめるとよいのではないか。

・どのような森林生態系を目指すのかということと関係して、シカがいないときはこのような植生になるので、このような植生を目指すということを示すとよいのでは。

・健全なシカ個体群とは？定義が必要。地域別の植生条件によって、適正な密度が違うことは今後明らかになるだろう。むしろ、森林の更新に影響がない、自然植生へ圧迫のない個体群を健全な個体群とするという表現で十分ではないか。

・計画区域で５頭/k ㎡は、必ずしも正しい密度とは言えないし、安全率を見込んで考える方がよい。

・ササの丈のモニタリングは、シカの密度との関係を見るためにも、ポイントを設けて毎年調査してほしい。

・森林保全は中長期的目標として重要だが、実際に実行するための保証をした方がよい。毎年見直しをする、協議会を設ける、など具体性をもたせるように。国有林側の考え方との話し合いの場を設けるなど、ネットワークづくりが必要。

・毎年 40 頭捕獲とあるが，捕獲は初年度が一番しやすく，年ごとに難しくなるので初年度に多く捕獲した方がよい。

・計画区域は狭いので、初年度にシカを多く捕獲するのは危険だと思う。また、ハンターなどの問題もあるので、１年で 80 頭を捕獲するのは現実的には無理ではないか。

・年齢構成、繁殖状態、成長曲線など、今まで個体を捕獲していないので、資料が乏しい。モニタリングでしっかりデータを取り、蓄積する必要がある。胃内容の調査もしてほしい。

・モニタリングでは、林冠構成種の実生、稚幼樹のデータをとるとよい。林冠構成種では、1.3m以上の個体追跡と対応するように 1.3m未満の木本もデータも必要。

・奈良県では、５頭/k ㎡、２頭/k ㎡という方針なので、大台ヶ原で密度が高く、標高の低い地域で密度を低くするというような調整は難しい。どのように合意形成をするのかが問題になる。

・捕獲は役場の協力がないと難しい。実際の捕獲では、土地勘のある、認識のある人でないと難しい。危険を伴うことを考慮してほしい。要望に添って協力はしていきたいが、現実的に駆除は簡単ではない。地元で十分検討して効果的に協力できるようにしたい。